

あけましておめでとうございます。主の 2019 年を迎えました。本年もよろしく願いいたします。

年末最後の日曜日に、牧師館建設についての説明会がありました。教会堂は耐久性のあるものをとの願いをもって建てられたと聞いておりますが、新しい牧師館も次の時代を見据えて 50 年使用可能な建物をと願っています。その次の時代にこの地にある教会に連なる人々がいなければ、維持管理することはできません。そのためだけではありませんが、信仰を継承し教会に連なる人々を導いてくださるよう祈りたいと思います。みことばを語り告げ、み救いに導かれる人が多く起こされることを願うものです。

詩篇 78 篇の最初の 8 節のみことばを通して三つのことを教えられます。神のみわざを語り告げること、後の世代にまたその子どもたちに教えよと主が私たちに命じておられること、また彼らが神から離れてしまわないためにということです。

神のみわざを語り告げよう

この詩篇は表題に「アサフのマスキール」とあり、ダビデの幕屋礼拝において主に讚美をささげる者として任命された人々のかしらとなった「アサフ」によるものと思われます。歴代誌第一、16 章 4~5 節に「それから、レビ人の中のある者たちを任命して主の箱の前で仕えさせ、イスラエルの神、主に向かってその御名を呼び、告白し、賛美するようにした。かしらはアサフ、…」と書かれています。つまり幕屋で主に礼拝をささげる時に、讚美の奉仕をする人たちのかしらがこの「アサフ」です。7 節には、「その日、その時、初めてダビデはアサフとその兄弟たちを任命して、このように主に感謝をささげさせた。」と記されています。どのように讚美したのか、それは 8 節以降に記されています。8~9 節に「主に感謝し、御名を呼び求めよ。そのみわざを諸国の民の間に知らせよ。主に歌え。主にほめ歌を歌え。そのすべての奇しいみわざを語れ。」とあります。ダビデがアサフを通してささげた神への讚美の初めに、主への感謝とともに、神のみわざを知らせそのみわざを語ることを詩っているのです。この箇所は詩篇 105 篇にも記されています。また、23 節にも「全地よ、主に歌え。日から日へと、御救いの良い知らせを告げよ。主の栄光を国々の間で語り告げよ。その奇しいみわざを、あらゆる民の間で。」とあります。この箇所も詩篇 96 篇で繰り返し記されています。いずれも神のみわざを知らせ、良い知らせを告げ、語り告げよと告げています。

詩篇 78 篇に戻りますと、その表題にある「マスキール」とは教訓の詩という意味です。教訓として心に留める詩、それが「マスキール」です。この後にはもイスラエルの民が出エジプト後、荒野において放浪したことや、エジプトを出る前に

神がエジプトに災いを下されたこと、またエジプトからの脱出と、約束の地カナンへの占領のことが書かれています。そしてダビデが王として立てられたことが記されています。これらの民の歩みを教訓として示す前に、イスラエルの歴史を通して心に留めるべきことは何かを 1~8 節 で詩っています。

3~4 節に「**私たちが聞いて 知っていること。私たちの先祖が語ってくれたこと。それを私たちは 息子たちに隠さず 後の時代に語りあげよう。主の誉れを 主が行われた 力ある奇しいみわざを。**」と記されています。「先祖が語ってくれたこと」を「語りあげよう」と言うのです。イスラエルの民が経験したこと、それを「後の時代に語りあげ」なければならないと語っているのです。「息子たちに隠さず 後の時代に語りあげよう」と言って、民の歩みの中で「主が行われた 力ある奇しいみわざを」、次の世代の者たちに隠さず話せと言うのです。私たちもまた「息子たち」に、「後の時代」に「語りあげ」伝えるべきことを心に留めたいと思います。それは「私たちが聞いて 知っていること。私たちの先祖が語ってくれたこと。」です。それは救い主なるイエス・キリストにある祝福と、また全能なる神の豊かな恵みを教える神のみことばです。私たちがみことばによって聞いたこと、みことばによって知ったこと、それを後の時代に語りあげることです。主のなさった奇しいみわざを次の時代に、また私たちの子どもたちに語りあげることです。

さとしとみおしえを教えよと主が命じておられる

このように主のみわざを語りあげようと呼びかけていますが、それは主が私たちにそうするようにと命じておられることなのです。二つ目に覚えたいことは、神の「さとし」と「みおしえ」を語りあげよと言われているのは、それが主から命じられたことだからです。神が命じておられるのですから、主に信頼して歩むと決意した私たちはその命じておられることに従うべきなのではないでしょうか。

5 節に次のように書かれています。「**主は ヤコブのうちにさとしを置き イスラエルのうちにみおしえを定め 私たちの先祖に命じて その子らに教えるようにされた。**」とあります。神はイスラエルの民を選び、彼らを教え導かれました。「さとし」を、また「みおしえ」を定めて、これに従い神のみこころのうちに歩むようにと告げられました。それを「子らに教えるように」と命じておられます。

この「さとし」と「みおしえ」は、みことばを通して私たちに届けられています。キリスト者は、イスラエルの民と同様に、みことばをもって次の時代の者たちを教え導かなければならないのです。そうするようにと主が命じておられるのです。

6 節には「**後の世代の者 生まれてくる子らがこれを知り さらに彼らが その子らにまた語りあげるため**」と記されています。親から子に、子から孫に「**教えるようにされた**」とあります。また子らが、そしてそのまた子らが「**語りあげるため**」

とされています。親から子に、子からまたその子らにと、神のさとしとみおしえを教え語り告げることを主は命じておられるのです。それは教えなければ、語り告げなければわからないからです。

毎日様々なニュースが報道されていますが、それによって私たちの知るところとなります。知らされなければわからないわけですし、正しく報道されなければ間違っ理解してしまいます。ローマ人への手紙 10章 13~14 節に『主の御名を呼び求める者はみな救われる』のです。しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。と書かれていますが、その通りです。神は家族の中で子どもたちに、そのまた子どもたちにと、神のみわざを語り告げることを命じておられるのです。また主の家族である教会の中で、「後の世代の者」に語り告げることを命じておられるのです。主がお命じになっていることから、私たちは忠実に果たさせていただきたいと思います。

神から離れてしまわないために

今朝心に留めるべき三つ目のことは、神から離れてしまわないためと云うことです。7~8 節に「彼らが神に信頼し 神のみわざを忘れず その命令を守るために。先祖たちのように 強情で逆らう世代 心定まらない世代 霊が神に忠実でない世代とならないために。」と記されています。イスラエルの民は実に強情で、神に逆らい揺れ動く民でした。不忠実で従うことを喜ばない民でした。それゆえ彼らは荒野をさまようことになったとこの後に記されています。更に荒野においてもぶやき、神に逆らったのですが、神は愛をもって彼らを守り導き、必要を備えて養われました。それは民が神から離れてしまわないためでした。

アサフはこの詩篇 78 篇の初めに「私の民よ 私の教えを耳に入れ 私の口のことばに耳を傾けよ。私は口を開いて たとえ話を 昔からの謎を語ろう。」と書いています。ここに「昔からの謎を語ろう」とありますが、「謎」とは不可解なこと、私たちの理性では納得できないことであり、あり得ないことという意味の言葉です。その「謎」とは、神と神によって選ばれた民との関係についてのことであり、神がなされた驚くべきみわざと恵みを忘れ、繰り返し神に背き、幾度も神を無視しようとしてきた、にもかかわらず神はその民を見捨てることなく、忍耐とあわれみをもってかかわってくださったと云うことです。それを「昔からの謎」と言っているのです。この「謎」が解かれて、「神に信頼し 神のみわざを忘れず その命令を守る」となることを主は願っておられます。「神に信頼し 霊が神に忠実でない世代とならないために」と言って、神から離れることがないように願っておられるのです。実はイスラエルの民だけでなく私たちもまた神に逆らう者です。人は誰でも神から離れ自分勝手な道を歩もうとするのです。しかし神は忍耐をもって私たちを導き、神から離れてしまわな

いようと御声をかけてくださるのです。またそのために、私たちに語り告げよと仰せになるのです。

まとめ

『みことばを生きること』、そして『みことばに生きる』こと、みことばからそれることなく歩み、そうすることによって福音は広がるのです。後の人々、特に家族の中の後の人々が、神を信じる者となるようにと願い祈りつつみことばに生きるなら、日ごとの生活の中で主が証しされるでしょう。この年もみことばに堅く立ち、みことばを語り告げる歩みを目指しましょう。